

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2018年12月1日
(No. 92)

2018
*
12月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (20)

新河岸川 (富士見市・ふじみ野市境界の旧河川)

砂川堀合流点から上流へ2つ目の新伊左島橋左岸で流入するのが、昭和初期の改修までの新河岸川旧河川。旧福岡高校跡のグラウンド工事現場の裏から、田園地帯を北に伸びて新河岸川放水路（新河岸川の洪水を荒川の旧河川であるびん沼川を經由させ荒川に流す水路）に達するまでの約1.5kmで、富士見市とふじみ野市の境界線になっています。夏はヨシなどがぎっしりと茂った湿地で近づくのが難しいところもありますが、草刈された後の冬季は水路に沿って歩くことができます。新河岸川放水路のあたりは、新河岸川と荒川の旧河川同士が最も接近し、400m程の距離です。

(天田 眞)

志木カヤネズミの巣をさがそう！

今年の9月は雨が多く、降らない日は5日～6日しかなかったと思います。台風も来ました。でも、9月23日（日）だけは晴れてくれ、今年も「カヤネズミの巣をさがそう！」を開催することができました。ただ、前日の9月22日（土）が雨だったので小学校の運動会が順延になり参加者がかなり減ってしまいました。それでもスタッフ含め50名弱のひとが集いました。天田代表の挨拶に始まりイベントの説明、カヤネズミの紙芝居、集合写真のあと各イベントが遂行されました。内容は「たんけん隊」・「虫とり隊」・「あそび隊」の3グループ分けて行動しました。「たんけん隊」はカヤネズミの巣探し、オオブタクサの抜き取り体験、宝物探し。「虫とり隊」は秋の昆虫採集と柳瀬川水族館の観察。「あそび隊」はカヤ原で遊ぶ、お宝釣りと矢なげ。皆それぞれ楽しそうに動き回っていました。

さて、残念ながら今年はカヤネズミの巣が見つかりませんでした。少しカヤネズミの生態について調べてみました。カヤネズミは小鳥のように巣を作るネズミとして知られています。本州以南に分布する国内最小の齧歯類（げっしうい）でその分布域の8割でレッドリストに掲載されています。春から初冬にかけてカヤ原に生息し、イネ科の草本類の葉を編んでその植物体の地上部（80 cm～120 cmの高さ）に直径8 cm～10 cmの球形の巣を作り子育てを行います。営巣の際、生きた葉を植物体から切り離さずに編みます。大きさは胴頭長6 cm～7 cm、尾長7 cm～8 cm、体重7 g～8 g位です。冬は地下に掘った坑道で過ごします。繁殖は関東では一回平均5～6頭、秋に集中する傾向があります。食性はイネ科の種子やバッタなどです。カヤネズミは河川敷や堤防のイネ科の植物、湿地帯のオギ・ヨシ群落を好むのでそんな場所を保存させていく配慮が必要であります。近年は特に開発が進み、オギ・ヨシの生育場所がどんどん狭まれて来ておりカヤネズミも減少してきているものと考えられます。そんな中、ここ「いろは親水公



（写真：青木 明雄）

園ヨシ・オギ保全地区」は是非とも維持していきたいものです。そして来年こそカヤネズミの巣に会えることでしょう！（松田 勝正）

柳瀬川のあらまし（6）

川越街道付近

川越街道英橋手前左岸の柳瀬川を望む崖線に松永安左エ門の別荘だった柳瀬荘があり、移築された江戸時代の民家は重要文化財。

英橋手前の右岸の樋管からは、野火止用水に新川越街道まで流されている下水処理水が流入しています。英橋右岸側の旧川越街道沿いの地区は旧大和田宿で朝霞市の膝折宿とふじみ野市の大井宿の間の宿です。その半ば、台地へ登る坂の途中を右側へ入ったところに、前回紹介した三本木墓地と同様の両墓制の埋葬（うめばか）だった帖上（はけうえ）墓地があります。一方、川越街道を越えて柳瀬川の近くには詣墓（まいりばか）があった普光明寺。志木の長勝院跡を管理している寺でもあります。

歩行者専用橋の柳瀬川ふれあい橋の下で、左岸から流れ込む小さな流れは新座市管理の中野川。台地上の跡見学園女子大裏手の谷間を流れてきて、途中で所沢市坂之下からの坂之下川を合流しています。

広く広がる右岸の低地

ふれあい橋を過ぎると右岸側に 1970～80 年代に出来た新座団地等が 2,500 戸、続いて志木ニュータウンが 3,200 戸と東上線までは大規模団地が連なり、隣接の戸建て住宅地も含め、広大な水田の跡です。1958 年に排水施設を設ける土地改良が行われましたが、その前は底なし沼状の湿田で、摘田（つみだ）と呼ばれた直播農法が行われていました。

新座から志木にかけての河道は、50 年程前に改修され、低水護岸はコンクリートブロック張りですが、新座団地前は下流の志木地域と異なり、低水敷に砂礫の堆積も少なく水際は実に殺風景です。ただ、最近が高水敷の刈残し部分に生えた樹木がかなり大きく育ち、ちょっとした河畔林のようになっています。

新座・志木境界の右岸は館第一排水ポンプ場と樋管。柳瀬川で最大規模の雨水排水施設で、志木市が管理していますが、流域面積 221ha は志木と新座がほぼ同面積で、東上線西側の志木市幸町・

館、及び、新座市の新座団地・大和田地区の雨水がここに集まってきます。雨水は市民体育館下の調整池に集まり、ポンプ場に入ります。

柳瀬川は志木に入る辺りから急に勾配が緩くなり、志木大橋下の大きな蛇行の内側には広い砂礫の堆積が見られます。（天田 眞）



1. 中野川の合流



2. 新座団地前の水際



3. 志木大橋下の砂礫の堆積

10月21日（日）

志木ぶらり散歩に参加しました

秋晴れの中「志木ぶらり散歩～新河岸川の旧河川跡を歩く～」に参加しました。前回のいろは橋上流に続き、今回は下流側。参加は6名に留まり、少々残念でした。

左岸の遊歩道となっている江戸時代の堤防（惣囲堤）を行いました。昭和初期河川改修時の堤防、平成時代の堤防と三代の堤防が一緒に見られるのは非常に珍しい。宗岡三小のグラウンド付近では元は朝霞市側から大きく曲がり込んでおり、釣堀はその名残です。宗岡二中の裏門前には惣囲堤に設けられた排水施設の竈島門樋（明治28年石造竣工）があります。洪水時には扉を閉じ河川からの逆流を防ぐ構造で、現在4か所残る樋門の一つです。志木地区衛生組合のグラウンド付近は大きく蛇行し、二中の裏側へ回り込んでいました。現在は赤野毛排水路の最下流部となっています。作業道を辿り水路際まで行きましたが、一部に栗畑はあるものの未利用地が多くみられます。1987年に河川工事で見つかった不法投棄産業廃棄物埋設地がフェンスで囲まれています。ここから下流は武蔵野線を挟んで地図上では旧河川跡が見えますが、残念ながら立入りできません。内間木公園で昼食、



〔写真：青木 明雄〕

公園そばの水路が旧河川跡です。

新盛橋を渡り右岸をひたすら帰り（旧河川跡は多く左岸にある）。宮戸橋袂のみつばすみれ園すずらん付近が志木市飛び地なのも旧河川の故です。付近には宮戸河岸がありました。

旧河川跡は市界となっているなど、多くの方に興味を持ってもらいたいと思います。

（鈴木 民雄）

11月18日（日）

柳瀬川の起点を訪れました

「柳瀬川ぶらり散歩3～柳瀬川最上流から狭山湖へ～」に参加し、柳瀬川の起点を訪れました。柳瀬川を上流へ向かう3回目です。昨秋と今春の予定が雨で流れ、今回1年越しです。曇り空でしたが次第に晴れ間も出て、快適な探訪となりました（参加者は13名）。

西武線西所沢駅下車、住宅地を抜けると柳瀬川に出ます。兩岸はコンクリート護岸ですが、カルガモがいてうれしくなりました。農家と思いきお宅や住居の間に畑も点在、時折作業している方も見かけます。

川を離れて荒幡富士市民の森へ。森の中は鳥のさえずりが盛んですが姿は見えません。通路脇にコウボウキの白花が見られました。狭山丘陵いきもの里ふれあいセンターをさっと拝見、館長さんは何と志木市在住とか。荒幡富士は数社を合祀した浅間神社境内に明治32年に完成、絶好の展望スポットです。所沢市内は遠望できたものの富士山や奥多摩・丹沢の山並みは雲に隠れて残念でした。

昼食をとって一路狭山湖へ。周囲は次第に畑が



〔写真：青木 明雄〕

増え、珍しく田んぼもありました。狭山湖の直下、大鐘橋の袂に柳瀬川起点の石標を見て感激です。狭山湖（山口貯水池）の水は多摩川から導水されており、東村山浄水場などに配水され、すべて東京都の水道用水となっています。柳瀬川には全く流れていないことを思うと、ちょっと複雑な感じでした。

（鈴木 民雄）

志木の生き物調査

9月15日 荒川堤外

イチョウの樹々がオレンジ色の実をたわわにつけ、ハンノキが緑の実と前年の古い実をつけています。

ダイズの原種という淡紫色の花のツルマメ、同じくマメ科のアレチヌスビトハギやクサネム、小豆の原種であるヤブツルアズキの黄花と線形豆果、ホウレンソウの仲間シロザの花等確認。

ハネナガイナゴ、コバネイナゴ、ミツバチ、アシナガバチ、スズメバチ、アメリカシロヒトリの幼虫、ヒロヘリアオイラガの繭、ヨコヅナサシガメの幼虫、ヨモギで作られたヒメアカタテハ幼虫の巣等観察。

11月5日 志木ニュータウン

近隣公園の一角のカゼクサの群生、赤く愛らしい実をつけたニシキギ科のコマユミの紅葉。その後、枝に板状の翼をもつニシキギも観察。

マメ科のエンジュの丸い球状のものが連なったような独特の形の豆果、ムラサキシキブのややま



[写真：青木 明雄]

ばらについた実、ビワの花。ナラガシワの樽状のドングリ、クマシデの大きな実、イヌシデ、アカシデの実。落葉が香るというカツラ。トウカエデ。多様な樹木の観察を存分に楽しむことができました。

シャラ、ヤマボウシ、サクラなども紅葉し始める中、公園や街路をめぐり、小春日和の心地よい散策となりました。

(庭野 恵子)

侵略的外来生物県民参加モニタリング調査を行ないました

今年最後の2回は、黄林閣周辺(9/3)、そして難波田城公園と富士見自動車道の間の区域(9/10)を調査しました。

今回教えていただいた見分け方の一部です。

○アメリカセンダングサ(舌状花は小さい・総苞が大きく目立つ)とコセンダングサ(筒状花のみ)

○アレチヌスビトハギ(豆果は4-5節)とヌスビトハギ(在来種; 豆果は2節)

○コニシキソウ(暗紫色斑紋)、オオニシキソウ(茎が立つ)、ハイニシキソウ(斑紋がない、地面を這う)

つぼみ、花がある場合はたいてい実も確認できるようなので、つぼみと花をつけたイモカタバミを見て、思わず「実は？」と聞いてしまいました。答えは「実はありません。」 種子はほとんどつけない、イモ状の塊茎で株が増え、ムラサキカタバミも鱗茎で増殖するとのことでした。

また、ヨウシュヤマゴボウが米国ではインクベリーと呼ばれていることを教えていただきました。熟した果実は、つぶすと赤紫色の果汁がでる。そ



[写真：青木 明雄]

れが赤インクや着色料の原料とされたようです。

9月3日の調査後、難波田城を見学。センニンソウや、移築された民家の前で栽培されている綿の花と実、そして藍を見ることができました。

(庭野 恵子)

宗岡公民館通りから せせらぎの小径の 自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



すみれ児童公園

今回は、宗岡公民館通りとせせらぎの小径に挟まれたあたりを宗岡第三小学校まで散策しました。

いろは通りの「宗岡公民館前」交差点から宗岡公民館通りを南に行き、「後口」の交差点を更に先に行くと宮戸橋通りにぶつかります。和光富士見バイパス予定の雑草地が横断する宮戸橋通りの先は畑が広がり、その先は旧堤防にぶつかります。ここは、見た目、緑がかなり残されたところですが、大半は和

(惣囲堤)と新河岸川の堤防の間には、前回の秋号に掲載しましたが、秋ヶ瀬取水堰から取り込んだ水の沈砂池があります。

沈砂池の西側には新河岸川の旧流路を利用した釣り堀があります。更にその隣は、宗岡第三小学校の校庭となっています。宗岡第三小学校の校庭と宮戸橋通りの間には、かつて農家だったと思われる敷地の広い家が数件あります。また、宮戸橋通りの反対側にも農地と農家があり、その先は、住宅地となっています。旧堤防(惣囲堤)の道路と新河岸川の堤防の間の低くなったところにたくさんの住宅があります。



宮戸橋通り(宮戸橋から)

もう一度、いろは通りに戻って、せせらぎの小



光富士見バイパスの予定地となっています。旧堤防

径を70m程進むと、斜めに横切るように和光富士見バイパスの予定地があります。柵で囲まれた予定地は、更地のままになっています。雑草が生え、それまでであった民家の樹木などが残っていて、それなりの広い緑地となっています。今回散策するエリアの真ん中を、このせせらぎの小径から宮戸橋通りの先まで、斜めに通り抜けることになっています。ほとんどの土地の買収が終わり、柵の中には入れませんが、道路ができるまでの間は、見通しの良い雑草地となっていると思います。



和光富士見バイパス予定地

宗岡公民館通りから1本西側の通りには、すみれ児童公園があります。小さな公園ですが、遊具の他に、園内には、藤棚やキンモクセイ、サクラ、モミジ、ケヤキそして、カイヅカイブキなどの木が植えられています。前回の「志木の生きもの調査」では、ウラボシチコグサやタンポポが沢山あったのを記憶しています。

この児童公園の通りには、田んぼや空き地がポツポツと残っています。児童公園の先を更に南に行った交差点のところには田んぼがあります。すみれ児童公園と同じくらいの広さの田んぼです。この道と宗岡公民館通りは、ほとんど並行していて、間には用水路があります。すみれ児童公園も、この田んぼ



すみれ児童公園の通りにある田んぼ

も用水路のところまでの敷地になっています。更に、次の交差点右には、小さな畑がありますが、この畑は、斜めに道路用地で切り取られています。道路用地は、ヤオコーの裏側まで斜めに横切っていて、広

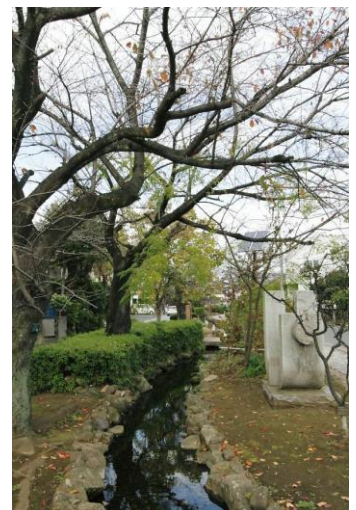
い雑草地となっています。更に進み、宮戸橋通りを超えた先で、宗岡第三小学校に突き当たります。宗岡第三小学校の周囲には、農家があり、広い農地や空き地が広がっています。児童公園のある通りと更に西側の通りとの間のヤオコーの裏側には、ナイター設備のあるテニスクラブがあります。このテニスクラブの周辺は、広い農地となっていて、数件の農



テニスクラブ周辺の農家と田んぼ

家があります。農家の屋敷林もかなり大きく、高さもあり、新河岸川の土手や、宮戸橋通りや児童公園のある通りからもこんもりした緑がよく見えます。このテニスクラブと旧堤防の間に一本道路があり、宮戸橋通りからせせらぎの小径に抜けています。この通りまで、数軒の農家と農地が広がっています。また、この通りに面した西側（旧堤防側）にもナイター設備のあるテニスコートがあります。以前は、駐車場となっていました。

今年は、柿の実りがいいのか、畑の中の大きな柿の木には沢山の実がなっていて、農家の入り口には、柿の実販売の木札がぶら下がっていました。最後に、せせらぎの小径ですが、この部分は、桜並木となっていて、真ん中に水路があります。このせせらぎの小径の下には大きな排水路があり、旧堤防の樋管を通して新河岸川に流れています。健脚の方は、桜の咲く頃に志木大橋から柳瀬川右岸を新河岸川合流点のいろは親水公園まで歩き、更にせせらぎの小径の桜並木を歩いて、終点となる蓮田通りからその先の浦和所沢バイパスの歩道橋を渡り、宗岡第二小学校を左に抜けて、富士見市の境まで歩いてみるのも楽しいのではないかと思います。約6kmの道ですが、地図の上でルートを描くと“？”マークのような形になります。“？”マークのままでなく、志木市の散策ルートとして名前を付けてやりたいですね。



せせらぎの小径

9月18日志木の自然観察（秋） こもれびのこみちとカヤネズミ原っぱ

快晴の中、小学生3名を含め総勢13名の方が参加しました。村山快哉堂前に集合し、最初に柳瀬川及び新河岸川について説明があり、その後榮橋を渡り、途中土手沿いでママコノシリヌグイ、ヤブカラシ、セイバンモロコシ等の野草を観察しながら、一路こもれびのこみちの斜面林へと向かいました。途中でアリジゴクを発見し、子供たちも喜んで観察しておりました。

この斜面林にはムクノキ、エノキ等の落葉樹とシロダモ、トウネズミモチ等の常緑樹が鬱蒼と茂っており、ちょっとした森林浴気分になりました。斜面林を下り、湧水のある池へ行きましたが、残念ながら池の水は濁っており、たまり水状態でした。

池のそばの斜面には見事なツリフネソウの群生が見られ、このような群生は中々見られないので思わず興奮してしまいました。その後富士下橋を渡り、三代の堤防の話を聞きながらカヤネズミ原っぱ沿いの堤防を散策していましたら、キマダラカメムシの幼虫、アカタテハの幼虫等を観察でき、



〔写真：青木明雄〕

子供たちも興奮気味でした。さて、今回の観察会では斜面林、池、堤防等色々な場面を観察でき楽しい一時を過ごせました。

（本間敏文）

辻銀杏で街あわせ・いろはふれあい祭り 柳瀬川図書館まつり「志木の自然環境」

9月末からは週末イベントの出展予定が連続していましたが、9月29日（土）の生活クラブ生協関連の『わかまつり』は雨天中止。

次の週の10月6日（土）には、ぺあも〜る商店街の空き店舗で開かれた『辻銀杏（つむじいちょう）で街あわせ』では、昆虫の抜け殻など様々な標本を展示しました。

次の週は、いろは遊学館の『いろはふれあい祭り』。一般公開の13・14日（土・日）に先立つ12日（金）に志木小学校児童の見学があり、そのため準備は11日（木）で、4日間の取り組み。木曜午後は昆虫などの標本展示、水槽設置、壁面パネルの展示。金曜午前には柳瀬川で魚などを捕獲し水槽に展示。午後に小学生の見学。魚は3日間の展示で途中で死なないか心配。いつもながら土曜は盛況でも、日曜後半は閑散としてしまうのが残念です。

1週おいて10月27日（土）には柳瀬川図書館まつりで『志木の自然環境』と題して講演。1時間で、志木の自然・樹林の自然・河川の自然・外来種問題・市の自然再生条例についてなど、写真



160枚を映写しながら話し、時間いっぱい終了したものの、十分な説明には時間が足りず残念。このテーマでは90分は欲しいと感じました。

（天田 眞）

① コガタスズメバチとキアシナガバチの巣

10月28日（日）こもれびのこみち定例作業中に、遭遇しました。[天田 眞]

② 台風24号のあと

10月1日（月）西原斜面林では、大量の枝が樹林内と斜面下の道路に落下し、まだ片付けが続いています。[天田 眞]

また、ケヤキの大木からカラスの巣が落下し巣材の小枝と針金ハンガーが散乱していました。[天田 眞]

③ 忍者の森

8月下旬 志木二小の敷地内で保育園の建設工事が始まり、樹木が全て伐採されました。[天田 眞]



キアシナガバチ（天田眞）



コガタスズメバチ（天田眞）



二小着工前（天田眞）



二小着工後（天田眞）



カラスの巣落下（天田眞）



台風落枝片付け（天田眞）

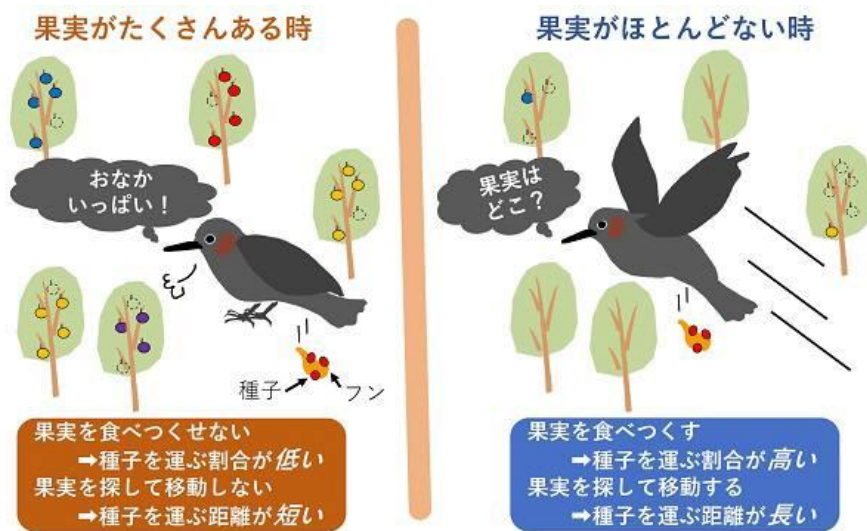
環境

ひとくちメモ（50） 伊藤 智明

「森の果実の豊凶が鳥のタネまきを左右する」

植物は自分で動くことのできないため、果実が動物に食べられることにより、タネをまいてもらっています（種子散布）。しかし動物の行動は複雑なため、実をつけてもまいてもらえないときも少なくないのですが、森全体の果実の豊凶が鳥による種子散布を左右することを明らかになりました。この研究では、ブナ林において、鳥が種子を運んだ割合や距離をいろいろな樹木（木本性つる植物を含む）で3年間にわたって調べた結果、森全体の果実量が多い時ほど鳥が種子を運ぶ割合が低くなること、また種子を運ぶ距離が短くなることが分かりました。これは、果実が多いと食べ残しが増え、果実を探して移動する距離が短くなるためと考えられます。

また、森全体の果実量と同じ場合は、定住性



国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所ホームページより

の鳥よりも渡り鳥のほうが種子を遠くに運んでいることも示唆されました。この研究から、森の果実の豊凶が鳥の行動を変化させることで種子散布を促進していること、また鳥の種類によって種子散布に果たす役割が異なる可能性が示されました。

（出典）国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 2018年10月15日 プレスリリース

「森の果実の豊凶が鳥のタネまきを左右する ―動物による種子散布メカニズムの一端を解明―」

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2018/20181015/index.html>

☆会員状況

2018年度更新済（11月28日現在）

正会員（個人）	43
正会員（団体）	2
賛助会員	2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2018年度の継続更新を、引き続きよろしくお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティー協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域NPO連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>
志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

二校版レビュー完了を年内目標に頑張っています

本来の校正ですと二校とは言わず、再校と言いますが、今回は、Aチーム分（樹木・昆虫など）の初校とBチーム分（魚類・鳥類など）・Cチーム分（野草・トンボばど）の再校が混ざっているため、あえて二校版と呼ばせてもらいました。10月に、樹木の写真の総入れ替えと画像をより大きくするために、文章を全て短くしました。野草については、初校通りの編集ができていたことの確認と空きスペースへの写真の追加などのレビューを終えました。また11月には、昆虫のレビューを行い、12月中には、全てのレビュー・修正を終えたいと思っています。11月と12月は、打合せも月3回から4回に増やして頑張っています。今回、全部の掲載種の収録を終えたことから、索引を作りました。アイガモからワルナスビまで837項目となりました。まだ用語解説・索引など不足な部分やあとがき・奥付など未了部分もありますが、全体で196頁となりました。また、とても気になる印刷費用の見積もりを行いました。当初120万円強になりましたが、発行部数の見直しを行い、再見積もりを依頼中です。（青木 明雄）



アイガモ

カモ科（飼育種）全長60cmくらい
マガモを飼育し家畜化したものをアヒルといい、マガモとアヒルを交配したものがアイガモ（写真の白い鳥はアヒル）。以前に放鳥したものが野生化し、繁殖している。



ワルナスビ

ナス科 花期6～10月
外来植物（北アメリカ）
高さ0.5～1m。茎の途中から太い枝をだし、先端に直径約2cmの淡紫色または白色の花を6～10個つける。茎には鋭い刺が多い。柳瀬川の土手などでよく見られる。



テントウムシの仲間は身近でよく見かけ、大きさや模様が様々あります。連載の第15回(70号)で一度取り上げましたが、今回は、最もよく目にするナミテントウやナナホシテントウ以外の種を紹介します。

テントウムシの仲間は蛹の期間がある完全変態で、多くの種は成虫で越冬しますが、その際に風の当たらないような場所で集団化する性質があります。また、冬季と同様に真夏にも一時活動を休止します。

ナミテントウやナナホシテントウを含むテントウムシの仲間の大半はアブラムシを食べます。**ダングラテントウ**(5mm)は南方系で、温暖化のせいか最近よく見られるようになりました。模様には変異が多く、よく見かけるのは黒い地の前側の縁に細い赤い紋が入るものです。小型で細長い体形の**ヒメカメノコテントウ**(4mm)や、同じ

く小型で微毛が生えている**ヨツボシテントウ**(4mm)もアブラムシを食べます。

アカボシテントウ(6.5mm)はウメなどにつく球状の**タマカタカイガラムシ**などを、**ヒメアカボシテントウ**(4mm)はサクラなどにつく平べったい**ウメシロカイガラムシ**などを食べますが、どちらも枝上に多数が集団をつくり蛹になります。

小型で黄色一色の**キイロテントウ**(4mm)はウドンコ病(葉が白い粉をかけたようになる)の菌糸を食べます。**ムーアシロホシテントウ**(4.5mm)・**シロジュウシホシテントウ**(5mm)も同様で、どちらも褐色の地に白い点状の斑紋で大変良く似ています。

植物食のものもいて、**ニジュウヤホシテントウ**(7mm)はナス科、**トホシテントウ**(6.5mm)はウリ科の葉を食べます。トホシテントウは珍しく幼虫越冬です。



ダングラテントウ



ヒメカメノコテントウ



ヨツボシテントウ



アカボシテントウ



ヒメアカボシテントウ



キイロテントウ



ムーアシロホシテントウ



ニジュウヤホシテントウ



トホシテントウ

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その10 写真で綴る小笠原（2）

⑤ カツオドリ



島で繁殖している大型の海鳥。体色は白と黒褐色で、海上で普通に見られる。海に飛び込み餌をとる。



⑥ 巨大なガジュマルに登って！

⑦ アカバ（アカハタの小笠原での呼び名。小笠原で多く見られるハタの仲間）



歯磨きされる、面白い姿。
東京都小笠原水産センターにて

編集後記

◇柳瀬川ぶらり散歩は、2回中止になった後の実施になりました。紅葉が楽しめたのではないのでしょうか？志木の生き物調査や侵略的外来生物県民参加モニタリング調査では、いろいろな植物の名前が出てきますが、お分かりになりますでしょうか？図鑑で、調べるのも通信の記事の一つの楽しみだろーと思います。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第92号 2018年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田 眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com